

スポーツPAOTで「スポーツイベントの環境をデザインできる地域の人材」を育成する

実施背景

千葉県の市民と大学生、自治体職員、プロスポーツスタッフが協働・連携しながら、千葉県で開催されるプロスポーツのホームゲームをより楽しく、安全で、快適なイベントにするための改善活動「スポーツPAOT」を実施した。

目的(地域課題の解決など)

同事業は「スポーツPAOT」という手法をスポーツへ導入。スポーツに関心のない子どもたちや、スポーツイベントに興味のなかった市民や大学生に「みるスポーツ」と「支えるスポーツ」の楽しさを伝え、「スポーツイベントの環境をデザインできる地域の人材」を育成することを目標にした。

取り組んだ具体的な施策

本事業は、職場環境をよりよく改善するために国際労働機関(ILO)が開発した「参加型改善(PAOT)」を世界で初めてスポーツイベントの環境改善に応用した。PAOTの1つ目の特徴は、その場所に集まる全ての人たちが協働で環境改善に取り組む「参加型(共創型)」である。2つ目の特徴は、その場所の問題点やリスクを指摘するのではなく(リスク評価型)、その場所をより良くするための具体的なアイデアを提言する「改善提案型」である。3つ目の特徴は、その場所の良い所(良好事例)だけに目を向けて、良好事例をさらに良くするアイデアを改善案とみなす「ポジティブ・アプローチ」にある。「スポーツPAOT」のプログラムはフィールドワーク(1日目)とグループワーク(2日目)で構成した。



スポーツPAOT

スポーツPAOTは、千葉県の自治体とプロスポーツチームの協力のもと、令和4年9月から令和5年1月にかけて実施した。1日目のフィールドワークでは、プロスポーツのホームゲームを観戦しながら、①安全・安心の確保(Safe)、②スムーズな移動(Move)、③コミュニケーション(Info)、④人に優しい施設整備(Link)、⑤環境保護への配慮(Environment)のテーマごとに(SMILE領域)、イベント会場の良好事例の写真を収集した。千葉県をホームタウンとするジェフユナイテッド市原・千葉(2試合)、千葉ジェッツ(3試合)、クボタスピアーズ(2試合)の7試合を通して、294名の市民と学生がフィールドワークに参加し、2951枚の良好事例写真を収集した。

2日目のグループワークは、市民と学生が順天堂大学の教室に集合し、SMILE領域ごとに小数グループを編成した。グループは多様性を高めるために中学生以上の市民と大学生の混成とした。小学生のグループには、子ども向けのプログラムを用意した。グループワークでは、自分たちが集めた良好事例写真のベスト3を選出し、それらのさらなる改善案を検討して、プロスポーツチームへの提言を行った。5日間、6会場に分かれて行ったグループワークには、206名の市民と学生が参加し、47グループで合計151の改善案をプロスポーツチームに提言した。PAOTでは、短時間・低コストで実現できるアイデアを改善とみなすため、「地面に描かれている案内表示のチョークの文字を太くする」、「選手カードをシールにする」、「車いす席のテーブルにドリンクホルダーを設置する」などの実践的なアイデアが提言された。いくつかの改善案はプロスポーツチームに採用され、翌週のホームゲームから実践された。

結果と今後の展望

本事業はプロスポーツの低関心層を参加者として巻き込むことに成功した(当該チームの観戦経験者は5~11%)。事前・事後アンケートでは、スポーツPAOTによってプロスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツ、大学の学び(PAOT)への関心度が有意に向上した。事後インタビューでは、「スポーツの楽しみが広がった」、「今後の運営に活かせる気付きがあった」などの声が聞かれた。今後はスポーツPAOTの普及と「するスポーツ」への応用を展開する。

協力・連携団体

- ・千葉県 ・佐倉市
- ・印西市 ・酒々井町
- ・クボタスピアーズ船橋・東京ベイ
- ・ジェフユナイテッド市原・千葉
- ・千葉ジェッツ



担当者の声など詳細は
事業MOVIEをチェック!

